

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時、全職員で最初に作成した。(個性の尊重、訴えの傾聴、笑顔を守り和やかな生活の保障を実践。介護職としての誇りと、敬いの心を持って接する)		自ら作り上げた理念。不動のものとし確実に実践していく
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、利用者に家庭的な環境の中で生活して頂くように取り組んでいる		理念の理解や確認、実践していく
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	施設に掲示しておらず、家族以外の地域の方との交流がない。浸透していない		来所者が見やすい場所に理念を掲示する。又、家族会の創設・開催、及び定期的な広報誌等の発行を行う
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣が旅館業のため日常的な付き合いは困難。現在まで実施されていない		併設の介護付老人ホームの利用者と定期交流をしていく
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブより催し物の誘いがあったが実施できていない		地域行事の参加のほか、年間行事の設定の中で南魚沼市主催のイベントに参加を図っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行われていない		地域包括支援センター主催の在宅介護者交流会で施設見学、座談会を予定している。今後も依頼があれば積極的に貢献する
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在まで行われていない。スタッフが第三者評価を理解していない		今回の外部評価を契機に、自己評価に取り組み、問題点を明確化する
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回開催し状況、活動等の報告は行っているが、スタッフへは会議録による事後報告のみとなっている		運営推進会議の結果を、グループホーム全体会議等を通し、業務に生かしていく
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月開催のサービス事業者会議に出席し情報を交換している。他に、市主催の研修会に参加している		特定の会議や研修だけでなく、グループホームの抱える課題等の情報を交換し、サービスの向上に取り組む
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在まで行われていない。スタッフが事業や制度に対する理解が不足している		権利擁護について学ぶ機会を作る
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や日々の業務の中で啓発しているが、法律に対する理解が欠けている		高齢者虐待法について学ぶ機会を作る

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	管理者が担当し、利用申し込み時や契約時に説明している	今後、詳細部分の取り決め等も文書化し、更に理解・納得が得られるよう取り組む
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	施設内部での窓口体制がはっきりしない。部外者への提示は行われていない	窓口体制を確立し、グループホーム全体会議や運営推進会議等で課題提出し、見直し・改善を図っていく
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	健康状態は口頭での連絡は行っているが、文書では行われていない。又、金銭管理等の報告は面会時適宜行う程度	電話以外に電子メール、写真、連絡票等を作成し、健康状態や金銭等の報告をしていく
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	行われていない(現在まで事例がない)	運営推進会議等で課題提出し、見直し・改善を図っていくほか、家族会の創設に努める
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	施設内部では月1回の定例会議で意見集約を実施しているが、運営者との会合の場がない	3月に1回は運営者を交えた会議を開催する
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事の実施や利用者の急変等に於いて随時調整して対応している	余力のある人員配置に取り組む
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	1名職員が入れ替わったが、利用者に事前周知はしていない	施設内部の月間新聞等を作っていく
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	業務マニュアル、緊急時対応マニュアルは整備してある。業務分担は大まかに決めているが、見直しについては臨機応変に対応できるよう余裕を持っている	感染症対応マニュアルを作成する

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>業務カンファレンスを随時開催。その他、認知症介護実践者研修に参加させている</p>	<p>OJTの実施。順次、全職員に外部研修の機会を作っていく</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新潟県グループホーム協議会、魚沼地域グループホーム連絡会に入会しており、適宜会議や研修に参加している</p>	<p>他施設見学等を通じ交流を図る</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>特段の事情がない限り、定時の終業を推進しているが、運営者と直接話す機会がない</p>	<p>適宜、運営者を交えた懇親会又は親睦会を開催する</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者と直接話す機会がない</p>	<p>人事評価の導入を検討する</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接で必ず行っている。本人が困っていることや不安、求めていることを聞いている</p>	<p>利用後に於いても聞き取りを継続する</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用相談、事前面接、利用契約時に必ず行っている</p>	<p>利用後に於いても聞き取りを継続する</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護制度の現状や地域の介護サービスの現状を説明している		利用契約前に本人・家族より事前に施設見学を行い、利用者の適性を見極めていく
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の意向のみでサービス提供のケースがある一方、入所時に利用者・スタッフ間の信頼構築に取り組んでいる		本人に対しインフォームドコンセントを確実に実施していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者個々の能力に応じ、調理や配膳、片付け・掃除などの家事をスタッフと一緒にやっている		利用者と一緒に野菜作りに取り組む
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が出来ること、施設が出来る事の役割を決めるため、随時会議を開催し介護方針を決めている		家族と一緒に楽しめる施設独自の計画を作る
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期受診の援助や時期に応じた面会、外出、外泊の実施。利用者の希望に基づき電話連絡などで、これまでの絆を保つよう協力して頂いている		家族と一緒に楽しめる施設独自の計画を作る
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の親戚、知人等の方と一緒に外出、外泊の協力、手紙のやり取りを支援している		今後、施設側としても、写真や手紙、広報誌などの提供を行い、関係を継続できるよう支援に取り組む
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	時間はかかるが心配りしている		更に利用者の性格や習慣、趣味等の情報を収集し、利用者の長所・短所を明確にし、共により良い関係を築けるよう取り組む

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	該当者なし		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接、訪問アセスメント時のほか、個々の話を聞き、内容を記録しスタッフで検討している		意向や希望の変化に対応できるよう取り組む
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接、訪問アセスメント時のほか、本人への聞き取りや家族への聞き取りで実施している		家族への聞き取りを続ける
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察・記録、申し送りで職員が共有すると共に、随時家族から在宅時の様子を聞き取っている		職員の観察・記録の継続のほか、更に家族へも習慣や趣味などを聞き取っていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一部利用者については家族や関係者を含め行っているが、大半は作成しているものの、本人や家族以外の関係者との話し合いは出来ていない		極力関係者全員が参加できるカンファレンスを開催する
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常時見直し作成しているが、一部利用者を除き本人、家族、関係者との話し合いは出来ていない		極力関係者全員が参加できるカンファレンスを開催する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送り等で、個々の情報を共有している		記録の記入方法を統一する
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々に合った排泄用品の発注や購入、個々に合った介護用品の購入、他施設への利用申し込みは援助しているが、送迎等車両を使った援助は行っていない		グループホームが持っている機能を総合的に生かしていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在ボランティア等の支援はない。併設の有料老人ホームと一緒に協力・支援を頂いている		ボランティア組織を作っていく
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療機関のリハビリ利用を支援している		本人の意向を最優先に今後も取り組んでいく
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や長期的マネジメント等の協働は現在まで行われていないが、地域の介護者交流会の場は提供している		今後、ケースバイケースで取り組んでいく
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に変化があった場合に限り、直近の状態を家族を介して情報提供している		平時においてかかりつけ医に対し、状態変化等の経過を書面で提供できるように取り組む

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	アドバイス程度の支援は行っている		今後更に実際に診察・治療が受けられるよう、専門医療期間の紹介、治療の必要性やその利点等の説明を行い支援に取り組む
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職がいないため行っていない		看護体制を取るか今後の課題。運営者と協議し体制確立に取り組む
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族同意の上、情報を入院先とやり取りしているが、入院先の医師の判断が大きい		情報交換に努め連携の強化を図る
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として終末ケアは想定していない。家族と職員の間では話し合っているが、主治医との話し合いは行われていない		緊急対応の勉強会の実施と家族との間で予後の方針を取りきめておく
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として終末ケアは想定していない。家族と職員の間では話し合っているが、主治医との話し合いは行われていない		緊急対応の勉強会の実施と家族との間で予後の方針を取りきめておく
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当該関係先へ基本情報や経過情報を提供している		本人、家族と十分に話し合い、選択の幅が広がるよう支援する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけの方法や態度に注意を払っている。又、記録や薬などの管理はカギの掛かる書庫に保管している	今後更に利用者個々の尊厳を守り、個人情報の厳格な管理を徹底するよう取り組む
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	共同生活に支障が出ない限り、本人の意思を尊重している	選択の幅が広がり自己決定がしやすいように取り組む
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	原則的な日課は決めているが、共同生活に支障が出ない限り、本人の意思を尊重し支援している	選択の幅が広がり自己決定がしやすいように取り組む
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪や衣服の選択は本人の希望を受け入れている	本人の希望があれば更に、行事や外出時に化粧やおしゃれ着等の着服が出来るよう取り組む
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備、刻み、味付け、盛り付け、配膳、片付けを職員と一緒にやっている。献立は提携先の管理栄養士が作成している	行事食のメニューは利用者と一緒に考える
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康を害さない程度のものであれば求め通りに提供・支援している	今後も継続する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の記入、その人に合った排泄用品の準備、本人が希望する排泄方法を支援している		今後更にオムツやパットの使用を減らすよう取り組む
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の取り決め(午前中)はあるが、その人のその日の気分で臨機応変に行っている		今後も継続する
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後睡、入床時間は個々の希望に合わせている		今後も継続する
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の性格や能力、その日の気分を考慮しながら、家事の手伝い、創作活動、散歩や外気浴等の実施で支援している		簡単な菜園を作り、外出機会を増やす
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力のある利用者には千円単位程度の金銭を持って頂いている		年数回施設内で買い物ができるよう工夫する
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	適宜、屋外に出て気分転換を支援している		本人の希望に沿った対応を行う
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	10月より開始した(市内の公園で紅葉狩り)		ドライブや日帰り旅行を計画する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば手紙の投函、電話の取り次ぎなど、自由に行って貰っている		今後更に写真や広報誌等で近況をお知らせするよう取り組む
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の其々の居室で自由に話が出来よう、椅子やお茶等の提供をしている		各居室にテーブルの設置を検討する
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設前研修から周知徹底を図り、ミーティング等でも継続して啓発している		今後も勉強会を開催し知識を深めていく
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯(21:00～6:00頃)は管理上行うが、それ以外は玄関、居室とも施錠しない		安全を確保しながら一般的な生活が出来るよう今後も継続する
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中も利用者が居室に居る時はいつも確認している。夜間は3時間おきに巡回及び介護している		今後はクッションフロア等の導入で物理的環境整備に取り組む
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や洗剤、乾電池等は利用者の目や手の届かない所に保管。マニュアルも作成している。薬はカギの掛かる場所に管理している		個々の能力に応じ、危険のない範囲で日用品を所持して頂く
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止は常に二重チェックを実践している。他に転倒予防、防災訓練を実施し、インシデント・アクシデントレポートの記載・報告で防止に取り組んでいる		クッションフロア等、物理的環境整備に取り組む

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個々の疾病やADL状態に合わせ、予測し得る急変や事故に対する対応方法の勉強会を開催している		救急法や応急処置等の内部実習を定期的に関く
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行われている。地域協力組織は併設の介護付老人ホームと共に、自治会や地域消防団と協力協定を結んでいる		地震、火災、水害等、其々の災害に合わせマニュアルを作成する
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時や家族の訪問時、リスクに対する内容を口頭では行っているが、文書による確認作業は行われていない		家族と定期的話し合う機会を作り、利用者の状態を知っていただく
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、利用者全員のバイタルチェックを実施。変化があれば、ミーティング、申し送り共有し、異常があれば管理者、家族に報告。早期の対応を行っている		今後家族と連携し、必要に応じ受診送迎の対応を行なう
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の目的、副作用、用法・用量について随時申し合わせている。処方薬は時々変わることがあるため、申し送りノートで確実に情報を共有している。症状の変化も申し送りノートを活用し確認している		今後はスタッフだけでなく、家族にも症状の情報を提供する
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を取りやすいよう数種類の飲み物を提供。多めの摂取を促している		利用者の運動機会を増やすと共に、スタッフ間で予防対策の勉強会を開く
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後義歯の洗浄、薬剤(イソジンガーグル)を用いた嗽を実施している		今後は義歯の使用状態、口内炎の有無等の状態を確認する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、量の調整、食物の形態、嗜好に合わせ提供している。カロリーは提携先の管理栄養士が管理している		今後は更に利用者の嗜好に合わせ提供していく
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	一部取り組んでいる(インフルエンザ予防接種)他は取り決めとまでは至っていない		各種マニュアルを作成し、勉強会を開催する
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理は手洗い・消毒を実施。食材はその日に使い切り、まな板や包丁は分別。食器等は食器洗浄・乾燥機で消毒している		季節に応じた旬の食材を多く取り入れるよう取り組む
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は施錠せず、玄関の内・外ともフラットで色分けしている。内玄関にベンチを置き、安全に靴が履けるようにしてある。下足棚に時折花を飾る		内玄関の壁に絵画や利用者の創作物の掲示、置物の設置で殺風景にならないように取り組む
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した季節に応じた創作物をフロアに掲示している。		玄関、廊下に絵画や置物を導入する
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにカーペットを敷き炬燵を設置。誰でも足を延ばせる空間を作っている。又、玄関先が広いため外気浴に活用している		フロアにソファベットの導入を検討する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なもの以外は本人が使い慣れた物を使っている		家族と連携しながら写真等を飾っていただく
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気(毎朝)のほか、随時換気に努め、エアコンによる空調も利用者に合わせ行っている。必要により消臭剤も導入している		定期的に換気を行う
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ、畳部屋とフローリング部屋を使い分けている。必要に応じ畳部屋をフローリングにするなど工夫している。		今後はその人の機能に合ったベット(低床ベット等)の導入を検討し、更に安全が確保できるよう取り組む
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を防ぐため、居室内はなるべくシンプルに。又、所持品の置き場は本人に無断で変更しない様に配慮している。失敗を特に咎めず、失敗してもいいように物理的な対応をしている		今後必要に応じ、施設内の場所が特定できるよう、表札や小看板を設置する
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設外が駐車場。天候に合わせて外気浴や茶話会の開催に活用している		花壇や菜園を作る

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームを単なる入所施設として捉えずに、利用者、スタッフが一つの家族として、其々の能力を発揮し役割を持った共同生活の場であるよう取り組んでいる。